

〔調査〕 イギリス労働組合会議と労働代表委員会の形成、 1875 - 1900*

序

本稿は私のイギリス労働組合会議(TUC)史研究の一環である。私のTUC史研究の問題関心と分析視角についてはすでに別に論じたが¹⁾、本稿にかかわるかぎりで略述すればつぎのようである。

イギリス資本主義発展史は、たんにイギリス一国にとっただけ特殊な意味をもつものではなく、資本主義発展史の理念型を構成するさいの不可欠な研究対象とされている。資本主義発展史の本質がまずは資本の発展史において把握されるものであることはいうまでもないが、しかしそれにもかかわらず、資本の発展史との関連において賃労働の発展史をも把握することなしには、十全な資本主義発展史像は構築されえない。しかも、資本主義発展史のもう1つの構成部分である「土地所有」の発展史が、とくに封建社会から資本主義社会への移行にとって重要な意味をもつのにたいして、賃労働の発展史が、とくに資本主義社会から社会主義社会への移行にとって重要な意味をもっていることを考慮するならば、資本、土地所有、賃労働という三者のからみあいのなかで賃労働がどのような運動形態をとるかということを究明することは、とくに現代資本主義社会の歴史的把握にとって不可欠であるといえよう。しかもそのさい、マルクスの経済学批判体系プランとの関連で述べれば、賃労働を資本と土地所有との関連で把握すると同時に、さらにそれら三者を総括するものとしての「国家」との関連で賃労働を把握することがとりわけ重要となる。

ところで、この問題を究明するにさいして「労働の社会化」というマルクスの分析視角がとくに重要な意義をもっている²⁾。マルクスによれば、労働の社会化の進展

とともに「たえず膨張しながら資本主義的生産過程そのものの機構によって訓練され結合され組織される労働者階級の反抗もまた増大してゆく」³⁾。労働者の組織の基本的形態は労働組合においてみられる。そして「たとえ最初の抵抗目的が賃金の維持にすぎなかったとしても、つぎに資本家のほうが抑圧という思想で結集するにつれて、最初は孤立していた諸団結が集団を形成する。そして、つねに結合している資本に対抗するとき、彼らにとっては組合の維持のほうが賃金の維持よりも必要不可欠になる。……この闘争——これこそ真正正銘の内乱——においてこそ、来たるべき戦闘に必要なすべての要素が結合し発展する。ひとたびこの程度に達するやいなや、組合は政治的性格をおびるようになる」⁴⁾。

このような視点からするならば、本稿が対象とする19世紀第4四半期のイギリスの労働運動はどのような問題点をもつものとして把握されうるのであろうか。この点にかんするエンゲルスの認識については別稿⁵⁾で総括しておいたが、ここでは問題点をとりわけ鮮明に打ち出している『レーバー・スタンダード』掲載の一連の論説(1881年、『マルクス＝エンゲルス全集』第19巻)をとりあげておこう。彼はそこでつぎのように述べている。

1867年の選挙法改正は「労働者階級に新しい見とおしをひらいた。その結果、労働者階級は、ロンドンとすべての工業都市で多数派となり、こうして、自分たちの階級に属する人間を国会に送りこむことによって、新しい武器をもって資本にたいする闘争を始めることができるようになった」(p. 253)。賃金制度にたいする批判が労働者階級のあいだに広まるにつれて、「労働組合の地位は大きく変化しないわけにはいかない。……個々の職業の組合とならんで、またその上に、1つの全般的な結合体、全体としての労働者階級の政治組織が、かならず

* 本稿は昭和56年度文部省科学研究費による「イギリス帝国経済史研究」の一部である。

1) 拙著『労働と国家——イギリス労働組合会議史』岩波書店、1980年、「まえがき」参照。

2) 拙著『唯物史観と労働運動——マルクス・レーニンの「労働の社会化」論』ミネルヴァ書房、1974年、参照。

3) マルクス『資本論』第1巻、『マルクス＝エンゲルス全集』第23巻、大月書店、1965年、p. 995。

4) マルクス『哲学の貧困』同上全集、第4巻、pp. 188-189。

5) 拙稿「エンゲルスの一九世紀末イギリス労働運動論」『一橋論叢』第61巻第1号(1969年1月)。

生まれてくるにちがいない」(pp. 253-4)。「4分の1世紀近くものあいだイギリスの労働者階級はいわば『大自由党』の尻尾となることで満足してきた」(p. 270)。しかし、世界市場におけるイギリスの工業独占の崩壊は、「イギリスの労働者階級とイギリスの中間階級とをいまも結びつけている最後の環を打ちこわすことになる」(p. 259)。そのためには労働者階級は、保守党や自由党の時代遅れの綱領にたいして「新しい方向を打ちださなければならぬが、この方向は民主主義をめざすものでしかありえない。……労働者階級が人民の圧倒的多数を占めるイギリスでは、民主主義はまさしく労働者階級の支配を意味する。そうとすれば、この労働者階級に、彼らの前途に待っている任務——この大帝を統治するという任務——にそなえて準備をととのえさせるべきである。……そのための最良の方法は、すでに彼らの手ににぎられている力、すなわち、王国のあらゆる大都市で彼らが占めている現実の多数者という地位を利用して、彼ら自身の仲間を国会に送りこむことである」(p. 271)。

上述のような問題関心と分析視角からするならば、19世紀第4四半期におけるTUCの歴史の研究においては、自由党支配下の労働者政治から独立の労働者政党形成にいたる過程をTUC史に即しながら明らかにすることが、基本的な課題となる。

本稿では、まず問題の背景として、[I]1875年以前の労働者政治組織の発展と、[II]19世紀第4四半期の政治状況について略述し、ついで本論として、いわゆる「自由＝労働派」の指導下における労働組合運動がどのような過程を経て労働代表委員会(1906年に労働党と改称)を生み出していったか、その筋道をTUC史に即しながら明らかにする。

[I] 1875年以前の労働者政治組織の発展

1875年以前のイギリス労働運動史は2つの時期に区分される。すなわち、①産業革命期から1840年代にいたる産業資本主義の形成期、および②1850年代から1870年代にいたる産業資本主義の「黄金時代」である。労働者の政治組織の発展もこの2つの時期においてその特質を異にしている。

1 産業資本主義の形成期

産業革命期から1840年代にいたる時期は、ラッダイト運動、オーウェン主義労働組合運動、チャーティスト運動などにみられるように、新しい生産様式と社会体制の形成に対抗する労働者側の反乱が続いた、労働運動の「暴動の時代」⁶⁾であった。労働者の政治運動としては3

つの大きな波がみられた。

第1の波は18世紀末の「通信協会」を中心とする議会改革運動である。イギリスにおける労働者の最初の政治団体は、フランス革命の影響下で形成された。T. ペインらの急進主義思想の影響を受けて、「イギリス史上最初のはっきりした労働者階級の政治団体であるロンドン通信協会」⁷⁾が、議会改革と普通選挙権獲得を目的として結成されたのは、1792年であった。通信協会は短期間のうちに全国各地に組織を拡大した。急進主義の普及を恐れた政府は、1799年に通信協会禁止法を成立させ協会の活動を不可能にしまった。

第2の波は、1815年の対仏戦争終了から1832年の選挙法改正にいたる時期に高まった議会改革、選挙法改正運動である。この運動は、その本質において「労働者階級の主力が工業都市の上昇しつつある中産階級と一時的に同盟した民衆運動」であった⁸⁾。

この階級同盟の解体後に、第3の波としてのチャーティスト運動が開始される。すなわち、「選挙法改正法は、主として労働者階級の運動により、また労働者階級が指導的な役割を演ずるかもしれない革命の脅威によって通過した」⁹⁾。だが、中産階級がこれによって政治権力に関与する権利を得たにもかかわらず、労働者階級は選挙権を獲得しえなかった。これ以後は、中産階級の大多数は急進主義運動から脱落し、取り残された労働者階級は、新旧両支配階級の連合権力に独力で対抗せざるをえない立場に立たされることになった。この課題を担ったのがチャーティスト運動(1836年、「ロンドン労働者同盟」結成——1848年、第3次請願否決)であり、それが産業資本主義形成期の最後の労働者政治運動をなしたのである。

2 産業資本主義の「黄金時代」

19世紀第3四半期の産業資本主義の「黄金時代」においては、とりわけ1860年代から70年代中頃にかけて労働者政治運動の高揚がみられた。しかし、その政治運動の基本的性格は、もはやそれ以前の体制変革指向のものではなく、確立された資本主義体制下での労働者の市民権獲得(選挙権獲得)と労働組合運動の市民権獲得(組

6) Cole, G. D. H., *A Short History of the British Working-Class Movement, 1789-1947*, London: Allen and Unwin, 1948, p. 4 (林健太郎他訳『イギリス労働運動史』第I巻, 岩波書店, 1952, p. 3)。

7) *ibid.*, p. 29 (邦訳, 同上書, p. 47)。

8) *ibid.*, p. 65 (邦訳, 同上書, p. 114)。

9) *ibid.*, p. 68 (邦訳, 同上書, p. 120)。

合運動の合法化)とをめぐすものであった。その具体的な展開は、①選挙法改正運動、および②労働組合運動にたいする法的規制の排除を目的とする政治運動であった。

チャーティスト運動は1848年に挫折したが、ほどなく50年代後半にいたると、普通選挙と秘密投票を要求する政治運動がふたたび労働者のあいだに勃興した。しかし、この政治運動は2つの点でチャーティスト運動と基本的にその性格を異にしていた。すなわち、それは、第1に、チャーティスト的な革命的衝動にもとづくものではなく、安定した資本主義体制の政治組織への労働者の参加を要求する純立憲的なものであった。第2に、チャーティスト運動が労働組合の組織的支援を得られなかったのにたいして、この新しい選挙権獲得運動は労働組合の積極的支援に支えられていたのである。

この新しい選挙権獲得運動は、50年代後半に始まり、60年代に大きく発展し、67年の選挙法改正に結実した。

第2次選挙法改正にもとづく最初の総選挙は68年11月に行なわれた。TUC第1回大会はその約半年前の同年6月に開かれている。したがって、この時期には労働者階級はその政治的影響力を選挙を通じて議会に及ぼしうる立場にあったといえよう。TUCが議会にたいする圧力団体としての性格を強くもつようになった背景にはこのような事情があったのである。

労働組合運動にたいする法的規制の排除を目的として1860年代に高揚した労働者政治運動は、68年にTUCを生み出した。翌69年には「新型組合」の指導者集団である「ジャンタ」の影響下で「労働議員選出同盟」が結成された。この組織の目的は、労働者議員を選出して「労働者の利益に関係する法案の、議会における審議過程を監視すること」¹⁰⁾であった。そのために労働議員選出同盟がとった手段は、選挙区の自由党組織に労働者議員候補者を公認させることであった。ジャンタは主として労働議員選出同盟を労働法改正への圧力を増大するために利用した。75年にこの目的が達成された後は、同盟は、当時チェンバレンらの影響下で急速に急進主義の方向にむかっていた自由党左派のたんなる補助機関となった¹¹⁾。TUCは、「議会における労働者の直接代表は必要事である」¹²⁾とする立場から、労働議員選出同盟を

支援したが、組合が純政治的目的には資金をだししぶったので、同盟の経済的基盤はつねに脆弱であった。

TUC自体は、71年の第3回大会で、議会対策のために恒常的活動をする「議会委員会」(Parliamentary Committee, 以下PCと略記)を設置し、煉瓦工組合のG. ハウエルをその書記に選出した。それ以後、「議会委員会は労働組合運動の公認された『内閣』となった」¹³⁾。これに対抗するために、73年には雇用主側の全国的組織として「全国雇用主連盟」が結成された。

PCを中心とする運動の結果、75年には「雇用者および労働者法」と「共謀罪および財産保護法」とが成立し、ピケティングの合法性が明示され、ストライキ権が確立され、労働組合運動が合法化されることとなった。同年10月のTUC大会でPCはいまや「解放の仕事は十分かつ完全に果たされた」¹⁴⁾と声明し、ハウエルは、TUCの存在は議会活動にかんするかぎりその生命を終えたと考え、PC書記を辞任した¹⁵⁾。しかし、とくに地方の代議員の強い要望でPCは存続されることになり、新書記として石工組合出身で労働議員選出同盟の書記であるH. ブロードハーストが選出され、TUCはここに新局面をむかえることとなった。

〔II〕 19世紀第4四半期の政治状況

まず最初に、19世紀第4四半期の政治状況を明らかにするために必要と思われるかぎり、この時期の経済的・社会的変化の特質をみておこう。

周知のように、「大不況」(1873-96)は、イギリスではとりわけ農業不況として現われ、その結果、地主＝ジェントリの経済的・社会的・政治的地位が次第に低下していった。工業面では、経営の家族企業の形態から株式会社形態への移行が進展し、連合、横断的結合、縦断的結合などの形態での企業結合も始まった。しかし、独占形成力は相対的にまだ弱く、アメリカとドイツの資本主義の急速な発展のもとでイギリス工業の国際的地位はいちじるしく低下した。農業勢力の衰退および工業勢力の国際的地位の低下とは逆に、この時期には金融勢力が発展していった。1890年前後に100以上の銀行の合同が行

ings at the Third Annual Trades Union Congress (以下、TUC, Report と略称)、1871, p. 81。

13) Cole, *op. cit.*, p. 207 (邦訳、前掲書、第II巻、p. 124)。

14) TUC, Report, Oct. 1875, p. 5.

15) Davis, W. J., *The British Trades Union Congress: History and Recollections*, Vol. I, London: Co-operative Printing Society, 1910, p. 52.

10) Prospectus of the Labour Representation League, in A. W. Humphrey, *A History of Labour Representation*, London: Constable, 1912, p. 189.

11) Cole, *op. cit.*, p. 213 (邦訳、前掲書、第II巻、p. 136)。

12) 1871年TUC大会の決議、*Report of Proceed-*

なわれ、銀行資本の集中が進んだ。「大不況」開始期に一時沈滞した海外投資も、1880年頃から次第に回復し、80年代後半には南アフリカの鉱山や南米オーストラリアの開発に伴う巨額の投資が行なわれた。帝国主義的な海外膨張の経済的推進力をなしたのは、ロンドンのシティを中心とする金融勢力であった。こうしてこの時期に、国内産業への投資よりは海外投資を重視するイギリス金融資本の寄生的性格が強化されることになった。

農業不況はまた人口の都市流入を増大させた。すでに19世紀中頃に都市人口が農村人口を凌駕していたが、19世紀末にはイングランドとウェールズの人口の4分の3以上が都市人口となった。

教育面では、1870年の教育法以来、初等教育が普及した。また、1855年の新聞印紙税廃止後の新聞の普及もめざましく、新聞の売却部数は1856年から82年のあいだに600%も増加し、1900年頃には成人5,6人に1人が日刊紙を、3人に1人が日曜紙を読むようになった。こうして、この時期には、労働者階級のあいだにも教育と知識が広まっていた。

このような経済的・社会的変化に加えるに労働者階級への選挙権の拡大がイギリスの政治状況をいちじるしく変化させた。

1867年の第2次選挙法改正は、都市選挙区で選挙権を大幅に拡大し、戸主と年価値10ポンド以上の貸間の間借人に選挙権を与えた。これによって都市の労働者が選挙権を獲得し、第1表にみられるように、選挙民数はほぼ倍増した。1884年の第3次選挙法改正は、「戸主および10ポンド間借人選挙資格」を州選挙区にも適用することによって、農業労働者と鉱山労働者に選挙権を拡大した。その結果、1885年の選挙権者は約438万人となり、その5分の3を労働者が占めるようになった。

第2次選挙法改正以後、選挙はもはやたんに地域の名望家が議席を獲得するだけの行事ではすまなくなり、政党は新有権者層である労働者階級に訴えかけその票を獲得しなければならなくなった。その結果、それまではい

わば「名望家のクラブ」にすぎなかった政党が、選挙民に基礎をおく民主的な組織をつくらざるをえなくなった。

すでに1867年のうちに保守党の地方組織は全国的規模のものにまとりはじめ、68年に「全国連合」が結成されるにいたった。同じ68年に、自由党支持者を獲得するための地方組織として「バーミンガム自由党協会」が結成された。その後同様の自由党地方組織が全国各地につくられたが、1877年にはそれらが「全国自由党連盟」に組織化されるにいたった。

保守党も自由党も新有権者層の支持を得るために社会改良策を提示し、またそれらを実施することによって労働者階級を既成の政治体制内に組み入れようとした。

保守党はディズレリの下に「わが制度の保存、わが帝国の維持、人民の状態の改善」をモットーとして、「トーリー・デモクラシー」の立場から社会改良政策を実施するとともに積極的な帝国政策を展開した。1874-80年のディズレリ保守党政府は、とくにインドとインドへの通商路の確保を主目的とする植民地政策を推進し、1875年には、代表的なマーチャント・バンカーであるロスチャイルド商会から融資をうけてスエズ運河会社の株を買収しその支配権をにぎった。

自由党は、「平和、節約、改革」を主張し、帝国政策については「小イギリス主義」の立場をとった。このような立場から保守党政府の帝国政策を批判して成立したグラッドストン自由党政府(1880-85)は、しかしながら、82年のエジプト征服に代表されるように、基本的にはディズレリ保守党政府の帝国政策をひきつぐこととなった。

ディズレリについて帝国政策を強行し、しかもそれを積極的に社会改良と結びつける政策(「社会帝国主義」)を展開したのは、J. チェンバレンであった。彼は自由党内の急進派であったが、1886年にグラッドストンのアイルランド自治法案に反対して自由党を脱党し、自由統一派を結成した。1895年のソールズベリ内閣の成立を契機にして、自由統一派は保守党と合流し両党派は統一党とよばれるようになった。統一党の政綱は帝国の維持と社会政策の実施との結合であった。チェンバレンは植民相として入閣した直後にこう力説した。「政府の政策は植民地資源を最大限に開発することである。われわれの周囲にある大きな社会問題を解決するためには、ただこの開発政策があるだけだ。……すなわち、古い市場を整理し、さらに新しい市場を開発すること、この方法による以外には、多くの労働者に職業を与える途はない」¹⁶⁾。

第1表 選挙権の拡大

年	選挙民数	増加数	増加率
1831	435,391	217,386	50%
1833	652,777		
1866	1,056,659		
1869	1,995,086	938,427	89%
1883	2,618,453		
1885	4,380,540		

〔資料〕 K.B. Smellie, *A Hundred Years of English Government*, London: Duckworth, 1937, p. 454.

16) *The Times*, August 24, 1895. 池田清『政治家

チェンバレンはとくに南アフリカ経営に積極的に進出したが、その結果が1899-1902年のボーア戦争となった。

労働代表委員会はこの帝国主義戦争の真直中に生れたのである。

〔III〕 ブロードハーストの時代 (1875-90)

ブロードハーストは1875年から1890年まで TUC・PC の書記を勤めたが、この15年間の TUC の歴史の特徴は、「自由放任」原理にもとづく労働運動を基軸とする TUC のうちに「国家介入」要求が現われる過程として把握されうる。その主要な推進力をなしたのは、1880年代における社会主義運動と「新組合運動」であった。

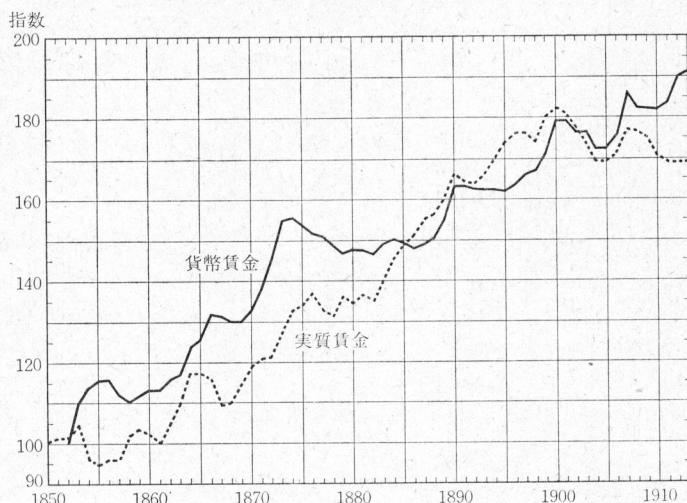
1 自由放任主義の一形態としての「自由＝労働主義」

すでに1875年以前に自由党の急進派は産業資本家と労働者階級上層との政治的連合の形成に基本的に成功していた。両者は、貴族特権の縮小と議会民主主義の拡張という点で共通の政治目標をもっていたのである。

労働組合運動の指導者たちは、すでに述べたように、1860年代に選挙法改正運動にとりくんだ。そのさい彼らは、あらたに出現しつつあった自由党の急進派と協力したが、これが「自由＝労働主義」Lib-Labism の実際の始まりとなった。自由党急進派と組合指導者たちの関係は1870年代前半に労働立法の問題をめぐって一時緊張したが、75年の労働立法の成立によってこの対抗関係は解消し、それ以後本格的な自由＝労働主義の時期が始まった¹⁷⁾。そして、この自由＝労働派と「独立の」労働者政治推進派との対抗が、第1次大戦にいたるまでの労働者政治の主要な特徴をなすことになった。

TUC の PC の書記であるブロードハーストは、彼の前任者のハウエルと同様、熱心なグラッドストーン支持者であった。ブロードハーストを中心とする PC メンバーは、TUC を政治的圧力団体とみなして¹⁸⁾、TUC の役割は自由党の少数派として党の注意を労働者階級の問題

第1図 貨幣賃金指数と実質賃金指数



〔資料〕 S. B. Saul, *The Myth of the Great Depression 1873-1896*, London: Macmillan, 1969, p. 31.

に向けさせることにあつたと考え、そのように行動した。そして、その他の政治問題については自由党の政策にしたがった。

1875年から80年にかけての TUC の議会対策は、主として労働災害にたいする雇用者負担、選挙権拡大、工場監督官に「实际的な人」を任命することなどの問題をめぐるものであった。

このような議会対策のあり方は、B. C. ロバーツが述べているように、社会の現体制に基本的に満足している組合指導者たちの見解を反映するものであり、その見解はまた組合員である熟練労働者たちの経済的・社会的地位の反映でもあった¹⁹⁾。1875年から80年代末まで、半熟練労働者と不熟練労働者は、繊維、炭鉱、鉄道を除いて、組織されておらず、組合員はほとんど熟練労働者であり、彼らは産業社会のなかで自らの地位を確立しており、不況期にもかかわらず、生活水準を向上させていた(第1図、参照)。

政治的主導権を自由党に託する労働組合指導者たちの態度は1880年に頂点に達したといわれているが²⁰⁾、その後の80年代においても自由主義にたいする彼らの確信は変化しなかった。この時期の PC は TUC 大会においてつぎのように主張している。

の未来像——ジョセフ・チェンバレンとケア・ハーディ』有斐閣、1962年、p. 137、参照。

17) 「真の『自由＝労働』時代が1975年に始まった」(Cole, *op. cit.*, p. 213, 邦訳、前掲書、第II巻、p. 137)。

18) Roberts, B. C., *The Trades Union Congress, 1868-1921*, London: Allen and Unwin, 1958, p. 99.

19) *ibid.*, pp. 96-97.

20) Pelling, H., *The Origins of the Labour Party, 1880-1900*, second ed., Oxford: Clarendon Press, 1965, p. 6.

「われわれは国家の援助を要求するものではない。われわれの要求するところのものは、自由、平等、繁栄にたいする国家による妨害の除去のみである」(1884年大会での PC 報告)²¹⁾。「労働者が国家の援助を拒否することによって仕事における自負心と独立心を示す」という「これまでの態度を維持するならば、労働者はその尊厳と重要性とを増すごとにかならず成功するであろう」(1887年大会での PC 報告)²²⁾。

これらの発言にみられるように、組合運動にたいする国家干渉の反対、自由放任主義が自由=労働派の思想の核心をなしていた²³⁾。自由=労働主義はまさに自由放任主義の一形態であったといえよう。

PC 書記のブロードハーストは、1873年から78年のあいだ労働議員選出同盟の書記でもあった。70年代後半の TUC 大会は毎年、労働組合は労働者議員選出のために全力をつくすべきだという主旨の決議を採択した。しかし、そのための具体策はなにもとられなかった。

1874年の総選挙で自由党の支持を得てはじめて2人の労働者候補(PC議長のア・マクドナルドとT・パート、両名とも坑夫組合出身)が当選したが、その成功は労働議員選出同盟よりは坑夫組合の力によるものであった。80年にはブロードハーストが同じく自由党の支持を得て当選したが、その年には労働議員選出同盟は死んだも同然の状態にあり、翌81年には活動を停止してしまっ

た。81年のTUC大会は、PCにたいして労働者候補を支援するためになんらかの組織的手段を講じることを委託したが、PCはなんらの具体的措置もとらなかった。翌82年のTUC大会では、労働議員選出基金創設の決議案が提出されたが否決されてしまった。同様の決議案が84年と85年の大会でも出されたが、いずれも可決されなかった。

だが、86年にアイルランド自治法案をめぐって自由党が分裂するとこの政界の混乱を契機として労働議員選出要求が具体化されることになった。同年のTUC大会の決議にもとづき、下院と地方自治体議会への労働代表の増大を目的とする「労働議員選出委員会」が設置された。この委員会は翌87年、「労働議員選出協会」と改称し独立組織となった。この協会は「全国労働党のセンター」

と自称したが²⁴⁾、実際にやったことは、自由党の公認を得て労働者候補の選挙運動を支援することであった。したがって協会は、独立の労働者候補を支援せず、1895-96年に解体するまで、独立の労働者政党創設の気運に反対しつづけた²⁵⁾。労働議員選出同盟と同様に、労働議員選出協会もまた弱体にとどまるとともに「自由党の尻尾」の役割を果たすことになったのである²⁶⁾。

2 社会主義運動の復活とその影響

チャーティスト運動崩壊後、産業資本主義の「黄金時代」には組織的な社会主義運動はなかったが、「大不況」期のなかで社会主義運動が復活した。1881年、ハインドマンと自由党左派のグループとロンドンの急進派クラブの労働者たちが、チェンバレンの全国自由党連盟に対抗するようなかたちで「民主連盟」を結成した。「民主連盟はチェンバレンの自由党組織にたいする反応——自由党政府のアイルランド抑圧政策によってひきおこされた反応——の産物とみなすことが可能である」²⁷⁾。民主連盟の主要目的はアイルランド抑圧の廃止と農業不況問題の解決であった。それは社会主義組織というよりは急進派組織であった。だがグラッドストンにたいするハインドマンの敵意が激しくなるにつれて、急進派支持者が徐々に民主連盟から離れていった。ハインドマンは、83年に民主連盟を社会主義的組織に変え、翌84年にはそれを「社会民主連盟」と改称した。同年1月には「フェビアン協会」が結成され、12月にはW.モリス、エリナー・マルクスらが社会民主連盟を離れ、「社会主義者同盟」を結成した。

これらの社会主義団体の活動にもかかわらず、そのメンバーは多くなく、80年代末でせいぜい2千名程度であった²⁸⁾。90年代にその組織をもっとものばしていった社会民主連盟でもその最高時のメンバー数は3千名強であった(第2図参照)。社会民主連盟もフェビアン協会も既存の労働組合運動との組織的連携を軽視した。社会民

24) Pelling, *op. cit.*, p. 58.

25) Cole, *op. cit.*, p. 231(邦訳、前掲書、第II巻、p. 170)。Roberts, *op. cit.*, p. 135.

26) 1874-1900年の労働者議員数は、ハンフリーズによれば、つぎのとおりである(Humphrey, *op. cit.*, pp. 192-193)。

1874	1880	1885	1886	1892	1895	1900
2	3	11	10	15	12	10

27) Pelling, *op. cit.*, p. 18.

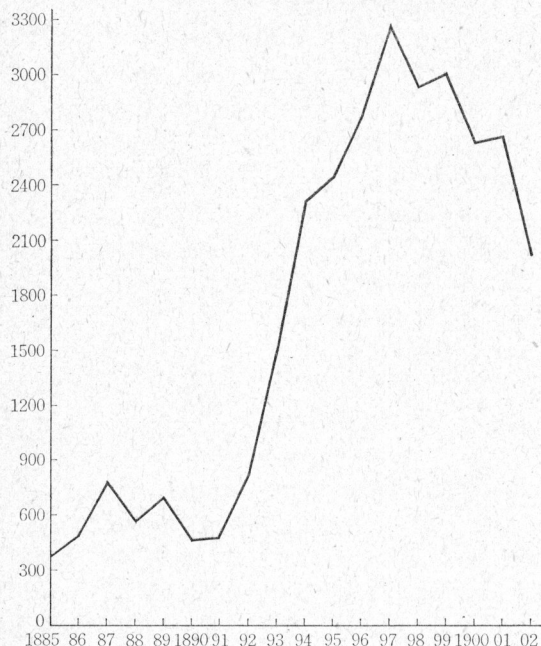
28) Adelman, P., *The Rise of the Labour Party, 1880-1945*, London: Longman, 1972, p. 11.

21) TUC, Report, 1884, p. 14.

22) TUC, Report, 1887, p. 16.

23) Martin, R. M., *TUC: The Growth of a Pressure Group, 1868-1976*, Oxford: Clarendon Press, 1980, p. 34.

第2図 社会民主連盟のメンバー数



〔資料〕 P. A. Watmough, "The Membership of the Social Democratic Federation, 1885-1902," *Society for the Study of Labour History, Bulletin*, No. 34 (Spring 1977), p. 40.

主連盟は労働組合の「保守主義」を批判し、フェビアン協会は既存政党への「浸透戦術」を基本としたのである。

社会民主連盟と社会主義者同盟が民衆運動と結びつきはじめたのは1885年であった²⁹⁾。アイルランド抑圧法反対を手がかりに大衆活動をはじめた社会主義者たちは、「集会の自由」闘争から失業者デモの組織へとその活動を展開していった。ロンドンの失業者運動にはじまる社会主義者と労働者との結びつきは、地方にも広がっていった。不熟練労働者の組織化は80年代中頃から始まったが、88年のロンドンのマッチ女工のストライキの成功、89年のガス労働者の8時間労働日の獲得と港湾労働者の賃上げストライキの成功などの後、89年から90年にかけて「新組合主義」の戦闘的運動が全国的に広がっていった。89年には第2インタナショナルが結成され、90年には8時間労働日を国際的統一スローガンとするメーデー集会が開かれた。

すでに70年代末から社会主義思想がTUC内部に入

りはじめていたが³⁰⁾、それが明瞭なたちをとりはじめたのは86年のTUC大会であった³¹⁾。同年の大会は、失業者の大衆デモを背景として開かれたが、大会議長のF. マディソンは、開会演説のなかで、8時間労働日立法化、土地国有化、資本主義批判などの社会主義的な諸問題の重要性を強調し、これらの問題に反対するPC主流派を暗に批判した。

翌87年大会の議長をつとめたW. ペヴァンも、「社会主義はわれわれにとって恐怖ではなくなった。われわれにとっての最大の悪は、資本主義の無制御の、無法な冷酷な力のうちにある」と述べ、広範な国家介入計画をつくる必要があると主張し、そのための労働者議員選出の重要性を強調した³²⁾。この年はじめてTUC大会に参加したキャ・ハーディは、自由党と癒着するブロードハーストをはげしく批判した。ハーディはまた、組合は国家援助を必要としないとするPC報告の修正を求め、8時間労働日立法化を要求した。彼の要求は否決されたが、8時間労働日実現の手段を組合活動に求めるか立法化に求めるかを明らかにするための組合員投票を行なうことをPCに指示する決議が、ブロードハーストの反対にもかかわらず、採択された。

大会後にPCはこの投票を行なうように加盟組合に指示したが、その指示内容が不明確であったので、はっきりした結果が出ずに終わった。翌88年大会で再度の投票要求が可決された。だが同大会では、炭鉱労働者と鉄道労働者の8時間労働日立法化をPCが支援すべきとする決議案は、圧倒的多数で否決された。また、同大会では、労働者議員は既存政党から独立した活動をすべきだとする決議案が提出されたが、82票対18票でこれもまた否決された。

社会主義運動と労働組合運動との結合を基盤とする労働党の結成という本稿の問題視点からすると、80年代における重要な組織的進歩は、ハーディによるスコットランド労働党の結成にみられた。1888年3月の中部ラナークの補欠選挙でハーディは自由党の公認を得ようとしたが、自由党はこれを拒否した。そこで彼は社会主義者たちに支援されて独立の労働議員候補者として選挙運動を行なった。彼は落選したが、この選挙運動からスコットランド労働党が誕生することとなった。同年8月に

30) 拙著『労働と国家』, pp. 79-80.

31) Roberts, *op. cit.*, p. 111. Martin, *op. cit.*, p. 47, Lovell, J. and B. C. Roberts, *A Short History of the T. U. C.*, London: Macmillan, 1968, p. 30.

32) TUC, Report, 1887, pp. 18-21.

29) 安川悦子『イギリス労働運動と社会主義——「社会主義の復活」とその時代の思想的背景』御茶の水書房, 1982年, p. 14.

開かれた新党結成大会でハーディが党書記に選出された。党綱領の内容は、議員歳費制、上院廃止、土地・鉱山の国有化、労働立法としては、8時間労働日、国家保険制、争議の仲裁と最低賃金決定権をもつ仲裁裁判所の設置、工場法の拡張などの要求であった。もっともこの新党も自由党との協力をまったくやめたというわけではなかった。まず他党の候補者に労働者のための政策を支援するように働きかけ、この保証が得られない場合にだけ自党の候補者をたてるという戦術がとられたのである。

3 新組合運動の影響

個々の社会主義者の PC 批判は、80 年代においてはまだ TUC 内部で大きな影響力をもちえなかった。PC 主流派に決定的な衝撃を与えることになったのは、80 年代末に始まった新組合運動の高揚であった。「新組合の存在が、PC の政策にたいする力強い挑戦を確実にものにしたのである」³³⁾。

TUC 内部では、80 年代を通じて、自由主義原理にのっとって労使関係への国家介入に反対する自由＝労働派とこれを批判する独立労働派との対立が続いていたが、この対立は、後者が主張する 8 時間労働日立法化要求の問題をめぐるとりわけするどく展開された。労働者の政治権力確立のために労働日短縮がもつ巨大な意義についてはつとにマルクスが強調してやまなかった点であるが³⁴⁾、この労働日短縮の問題が 80 年代においてはまさに 8 時間労働日立法化要求として、社会主義者と新組合運動家との共通要求となり、さらにまた第 2 インタナショナルの運動にみられるように国際的な統一スローガンともなっていたのである。TUC 内におけるこの問題をめぐる攻防が労働運動における新旧両勢力の主戦場となったのも当然といえよう。

8 時間労働日問題についての組合員投票の結果が 89 年 TUC 大会で発表されたが、それはつぎのようであった³⁵⁾。「貴方は 8 時間労働日に賛成ですか」という質問にたいして、賛成 39,656、反対 67,390。「貴方は 8 時間労働日を立法によって実現することに賛成ですか」という質問にたいして、賛成 28,511、反対 12,283。このような質問の仕方には明らかに問題があった。また、この投票には TUC 加盟組合員の 8 分の 1 しか参加しなかった。それにもかかわらず、この投票結果をもってしては PC を立法化活動にふみくらせることは不可能であった。

同年の大会でハーディは、「全職業の最高労働時間を

8 時間とすべしとする決議にもとづき PC が運動を組織するよう、本大会は PC に指令する」³⁶⁾ という決議案を提出したが、この決議案は 88 票対 63 票で否決されてしまった。

このように全職業にわたる全般的な 8 時間労働日立法化要求案は否決されたが、それにもかかわらず、同年の大会でランカシャー坑夫連盟の代表が、炭鉱労働者のための 8 時間労働日立法化を PC が支援すべきだという決議案を提出したときは、圧倒的多数でこの決議案が採択された³⁷⁾。前年の TUC 大会が同様の決議案を否決したのにたいして、これは全般的立法化に向っての大きな前進となった。

当時、炭鉱労働者は石炭価格の変動に応じて賃金決定を行なうスライディング・スケール制の問題をめぐる 2 つの組織に分裂していた。スライディング・スケール制に反対する組合は、「坑夫全国連合」から分離して、1888 年から 89 年にかけて「全英坑夫連盟」を結成した。全英坑夫連盟は、当初ストライキ行動と立法化要求によって労働時間短縮運動をすすめたが、ストライキが不調となった後、立法化要求を中心としていた。ロバーツによれば、「全英坑夫連盟の指導者たちは、社会主義者ではなく、自由な団体交渉が失敗したので国家を利用しようとした practical opportunists であった」³⁸⁾。彼らは、89 年 TUC 大会で、全般的 8 時間労働日立法化要求という社会主義者グループの主張に反対しながらも、炭鉱労働についてはその特殊性を強調して炭鉱労働 8 時間労働法案制定の決議案を可決させたのであった³⁹⁾。

だが、この法案の準備を指示されたにもかかわらず、旧組合主義者たちが支配していた PC は、その作業を怠った。翌 1890 年の TUC 大会で全英坑夫連盟の代議員たちは PC を批判する動議を出したがそれは否決された。これを契機として彼らはこの大会で全般的 8 時間労働日立法化要求に賛成投票し、ここについて全般的 8 時間労働日立法化要求の決議が成立したのである⁴⁰⁾。

この 90 年 TUC 大会にはつぎのような特徴がみられた。第 1 に、89 年から 90 年にかけての労働組合員の激増が大会に反映し、前年の大会の代議員が 211 名(約 89 万名を代表)であったのにたいし、90 年大会の代議員は

36) *ibid.*, p. 54.

37) *ibid.*, p. 58.

38) Roberts, *op. cit.*, p. 126.

39) 相沢与一『イギリスの労資関係と国家——危機における炭鉱労働運動の展開』未来社、1978 年、pp. 125-126。

40) 同上書、p. 126。

33) Roberts, *op. cit.*, p. 132.

34) マルクス『資本論』第 1 巻、前掲、pp. 396-398.

35) TUC, Report, 1889, p. 52.

457名(約147万名を代表)となった。第2に、これらの代議員のうちにはJ. パーンズ、T. マン、B. ティレットなどの新組合運動家が多数含まれていた。しかもパーンズとマンは、50年代以降「新型組合」の典型とされてきた機械工合同組合を代表して参加したのである。89年以降の新組合運動の高揚は、90年大会の代議員の数だけではなくその質にも影響を及ぼしていたのである。90年大会の約4分の1の票は社会主義者の支配下にあったともいわれている⁴¹⁾。このような状況のもとで、第3に、89年大会で否決された全般的8時間労働日立法化要求が、193票対155票で採択された。しかも90年大会では、この要求に強く反対してきたPC書記のブロードハーストを批判して、彼の出身組合である石工組合の代表が、ブロードハーストは出身組合の意を体して立法化要求を支持する義務があるとまで主張するにいたったのである。第4に、この決議をはじめとして90年大会で採択された多くの決議が、国家と地方自治体にたいし労働者保護を要求する非自由主義的な制度要求・立法要求であった。大会直後の演説でJ. パーンズは、大会で採択された「60の決議のうち45の決議は、強者から弱者を守るために国家あるいは自治体の介入を求めるものであった」と述べている⁴²⁾。

こうして、90年大会で自由主義者たちは大きな反響を受けることとなった。8時間労働日立法化要求反対の旗頭であったブロードハーストは、病気を理由にPC書記を辞任した。ロバーツが述べているように、「ブロードハーストの辞任はTUCの歴史の一時期の終りを示すものであった」⁴³⁾。1875年から90年にかけての彼の書記時代に、TUCはイギリスの社会組織の一構成要素として確固たる地位を築くにいたった。だが、彼の時代のTUCは主として熟練労働者の立場を反映するものにすぎなかった。この意味で、社会的承認を獲得しえたのは、熟練労働者の組織を代表するTUCであった。不熟練労働者の組織の立場をも反映せざるをえなくなった90年以降のTUCは、したがって、ブロードハースト時代のTUCとは、歴史的にみてその局面を異にしているといえよう。

だが同時に、ブロードハーストの辞任によってTUC

の主流を社会主義者たちが占めるようにはならなかったという事実にも注目する必要がある。90年大会でPC新書記に選出された坑夫全国連合出身のC. フェンウィック下院議員は、ブロードハーストと同様に、グラッドストンの自由主義政策の熱心な支持者であり、8時間労働日立法化をはじめとして国家介入一般にたいする反対者であった。PCもまた従来どおり旧組合主義者たちが主流を占めつづけたのである。

〔IV〕 フェンウィックの時代(1890-94)

フェンウィックのPC書記時代は4年という短期間に終わったが、TUC内外で社会主義者たちがその勢力を急増させたところにこの時期の特徴がみられる(たとえば社会民主同盟については第2図参照)。93年に独立労働党が結成されると、その影響を受けてTUC内でも労働議員選出運動が進展し、93年大会では社会主義的労働議員選出のための政治基金の設置が決議された。翌94年大会では生産手段国有化要求が決議され、8時間労働日立法化に反対するフェンウィックがPC書記選挙に敗れ、立法推進派のS. ウッズが選出されるにいたった。

1 8時間労働日立法化問題

前年にひきつづき91年TUC大会でも全般的8時間労働日立法化問題が長時間議論されたが、結局ハーディの修正案「労働時間を1日8時間に規制する法律は、組織労働者の過半数が投票で否決する職業を除いて、すべての職業で施行されるべきである」⁴⁴⁾が、285票対183票で可決された。

91年大会ではまた、炭鉱労働者の8時間労働日立法化のためにPCは全力をつくすべしという決議が採択された。それにもかかわらず、フェンウィックをはじめとしてPCを支配する旧組合主義者が立法化に反対しつづけたので、この問題は実質的進展をみなかった。

92年大会と93年大会ではPCのこのような態度を非難する決議案が出されたが、ともに否決され、いぜんとしてフェンウィックがPC書記に再選されつづけた。

94年には炭鉱労働8時間法案が下院に提出され第2読会まで到達した。しかし各地域に選択権を与えるという修正が委員会の段階でなされたために、この法案は結局撤回されることになった。この修正はたった5票差の過半数でなされたのであるが、そのうちの1票はフェンウィックが投じたものであった。

彼のこの行動はただちに94年TUC大会に影響を与

41) Adelman, *op. cit.*, p. 17.

42) Cited in Webb, S. and B. Webb, *The History of Trade Unionism*, revised ed., London: Longmans, 1920, p. 409 (荒畑寒村監訳『労働組合運動の歴史』上巻, 日本労働協会, 1973年, p. 470)。

43) Roberts, *op. cit.*, p. 128.

44) TUC, Report, 1891, p. 53.

えた。大会決議に反対する者を PC 書記に選出しつづけるという異常な状態は、この大会で終止符が打たれることになった。PC 書記選挙でフェンウィックは敗れ全英坑夫連盟出身で 8 時間労働日立法推進派の S. ウッズ下院議員が新書記に選出されたのである。

また、この書記選挙では、新組合運動の指導者で社会主義者である T. マン(機械工合同組合)に約 3 分の 1 の票が投じられた⁴⁵⁾。これは TUC 大会における新組合運動の勢力の増大を示すものであった。マンの計算によれば、94 年大会の代議員 370 名中 80 名以上が独立労働党のメンバーであった⁴⁶⁾。そして、彼らのうちの多くの者は地方労働組合協議会の代表であった。

2 独立労働党

90 年代初頭にブラッドフォードを中心としてイングランド北部に独立労働運動が高まった。ブラッドフォードでは、1890 年のアメリカのマッキンレイ関税の打撃を受けて毛織物産業で賃下げ反対ストライキが続発した。この闘争のなかから小規模な労働者クラブ、社会主義者クラブが発展し、91 年春にはそれらが結合して「ブラッドフォード労働ユニオン」が結成された。その後同様な組織がイングランド北部に広まっていった。92 年には「マンチェスター独立労働党」が結成された。これらの組織の多くは社会主義的性格を持ち労働者政治の 2 大政党からの独立を主張していた。こうして全国的労働者政党を組織しようとする気運が高まってきた。グラスゴーで 92 年 TUC 大会が開かれたさいに、ハーディとブラッドフォード労働ユニオンの指導者たちは協議をし、労働者政党結成に関心を持つ者の集会を準備するための委員会をつくった。

彼らが組織した集会は 93 年 1 月にブラッドフォードで開催された。当時 23 の労働者クラブが存在したブラッドフォードは、地方の社会主義者の砦をなしていた。この集会には、労働者クラブ、フェビアン協会、社会民主連盟、スコットランド労働党および若干の労働組合を代表して、120 名の代議員が参加した。大多数の代議員はイングランド北部の組織を代表するものであった。

集会は、労働者の広範な支持を得るために、新党名として最初に提案された「社会主義労働党」という党名を否決し、党名を「独立労働党」とした。だが新党の綱領は社会主義的なものであった。それは、第 1 に 8 時間労働

日立法化を、つづいて少年労働廃止、病廃疾者保護、失業対策などの種々の経済的・社会的改革を、さいごに「生産手段、分配手段および交換手段の共同所有」の実現を党の基本目的とした。

独立労働党の綱領は社会民主連盟の綱領とほぼ同じであったが、両党は労働組合にたいする態度と教宣活動の点で大きく異なっていた。社会民主連盟は既存の労働組合運動に批判的であったが、独立労働党は労働組合運動との連携をとりわけ重要視した。また独立労働党は、その社会主義的主張をドグマの押付けではなく労働者に受けいれられやすい仕方ですべてに伝えることによって、労働組合員の支持を拡大していった。とくに地方の労働組合協議会に勢力を拡げていった独立労働党は、これらの組織を通じて TUC にたいしても影響力を伸ばしていった。

3 TUC 内における独立労働議員選出運動の進展

新組合運動進展の 1 つの結果は、各地域の労働組合指導者から構成される労働組合協議会の急増であった。新組合運動の活動家は地方自治体での活動を重要視したために、1889 年から 91 年のあいだに各地に約 60 の労働組合協議会が新設され、その数が倍加された。労働組合協議会は、社会主義者たちの活動の場となり、多くの労働組合協議会は独立の労働者政治を支持する強力な砦となっていた。

91 年には、ロンドン労働組合協議会が労働者議員選出を目的とする「労働代表同盟」を結成した。同年の TUC 大会で、ハーディは、労働者議員選出運動のための基金の設置を訴えたが、この決議案は 200 票対 93 票で否決されてしまった。

だが翌 92 年 9 月の TUC 大会では、同年 7 月の総選挙における労働者議員選出運動の不成功が影響したためか、PC は財政問題を中心とする労働者議員選出計画案を作成すべしとするハーディの決議案が採択された。

翌 93 年の TUC 大会は、PC 案にもとづき労働者議員選出運動のための基金の設立を決議しただけではなく、その審議のさいに独立労働党員の J. マクドナルドが提出した社会主義的な修正案をも可決した。その修正案は、「財政支援を受ける候補者は、すべての生産手段と分配手段の共同の所有と管理という原理を支持することを誓約しなければならない」とするものであった。

だが、おそらくはこの修正によって PC が社会主義的政策にまきこまれることを恐れたからであろう⁴⁷⁾、PC

45) 第 1 回投票の結果は、ウッズが 140 票、フェンウィックが 117 票、マンが 105 票であった (TUC, Report, 1894, p. 61)。

46) Pelling, *op. cit.*, p. 191.

47) Cole, G. D. H., *British Working Class Politics*,

はこの大会決議の具体化に努力しなかった。PCはこの決議が大会で採択されたことを知らせる回状を各組合に送付したが、それにたいする反応が2つしかなかったという理由で、それ以上の努力をしなかったのである。結局この案は立消えになってしまった。

だが、生産手段社会化の要求は、翌94年のTUC大会でも承認されることとなった。すなわち、土地国有化要求の決議案が審議されたさい、ハーディは、土地「およびすべての生産手段、分配手段、交換手段」の国有化、という一句を挿入する修正案を出し、それが219票対61票で採択されたのである⁴⁸⁾。

〔V〕 ウッツの時代(1894-1900)

90年代後半のTUCは、95年大会における社会主義者の排除に始まり、99年大会における労働者政党結成プランの採択に終わった。この短期間にTUCを労働者政党結成にふみきらせた主要因は、①資本家の反攻強化と裁判所の反組合的判決などによる労働組合運動の危機の高まり、および②自由党依存の労働者政治ではもはやこの危機を救えないという組合指導者たちの意識の高まりであった。

1 社会主義者の排除

前述のように、90年代前半には労働組合協議会を通じて独立労働党の影響がTUC内で顕著になってきた。95年大会ではこれにたいする反撃が議事運営規則改正による労働組合協議会代表のTUCからの排除として具体化した。

1890年まではTUC大会での投票は1人1票の挙手投票であり、TUC構成団体は代議員を何名送っても議事規則にふれなかった。90年大会で構成員1千名で1票という議事規則改正がなされたが、翌91年大会ではその実施に反対が多かったため、あらためて議事規則検討委員会が設けられることになった。この委員会が翌92年大会に提出した新議事規則は、若干修正されて採択された。新規則の第4節では労働組合協議会の二重代表を防止する工夫がなされていた。すなわち、労働組合を代表する者は直接に労働組合同議員としてTUC大会に参加し、労働組合協議会は労働組合以外の団体のメンバーを代表する代議員を参加させるべきである、とするものであった。この新規則の隠された意図は、TUC大会における労働組合協議会の影響力の弱化であった。だが、

この新規則のもとにおいても、労働組合協議会は、前述のように、とりわけ93年の独立労働党結成後TUC内における勢力をますます増大させていったのである。

94年TUC大会は議事運営規則改正問題を再度とりあげ、その検討をPCに委託することとした。PCは、独立労働党に反感をもつJ. パーンズと紡績工組合の指導者で熱心な保守党支持者であるJ. モーズリーのイニシアティブのもとで、労働組合協議会の代議員をTUCから排除するような規則改正案を作成した。その案は、①大会代議員資格を現に労働者であるか組合有給役員である者に限定する、そして②代議員が代表する組合員数1千名につき1票が与えられるというブロック投票制を採用する、というものであった。

95年大会でこの改正案が審議されたさい、モーズリーは、この改正がなされなければ無節操な政治的扇動家たちが組合運動を支配することになると強調した。すでに開会演説において独立労働党をはげしく非難していた大会議長のJ. ジェンキンズは、多くの反対の声を無視してこの改正案の採決自体をブロック投票制によって強行した。これは明らかに組合民主主義にもとる一種の「クーデタ」であったが⁴⁹⁾、結局、60万4千票対35万7千票でこの改正案は採択されることになった。

この結果、TUCの創設者とも言うべき労働組合協議会はTUCから排除され、さらにブロック投票制の採用により、95年以後の大会では、大組合が大会の支配権を握るようになった。社会主義者の代議員の数は約4分の1減少したといわれている⁵⁰⁾。

この95年大会では、さらに、前年の大会で決議された「生産手段、分配手段、交換手段の国有化」の要求が撤回されるにいたり、PC選挙においても社会主義者としてはJ. ホッジとW. ソーンが当選したにすぎず、B. ティレットは彼の席を失った。「振り子は大きく逆に動いたのである」⁵¹⁾。

すでに95年9月のTUC大会に先立つ同年6月の総選挙で28人の独立労働党候補者が全員落選していた。その後97年までの2年間は「労働者階級のあいだでの政治的無関心と、社会主義者の内部での内紛、不統一と増大する失望の時期」となった⁵²⁾。「1897年までに社会

1832-1914, London: Routledge and Kegan Paul, 1941, p. 117.

48) TUC, Report, 1894, p. 55.

49) Roberts, *op. cit.*, pp. 146-152.

50) Pelling, *op. cit.*, p. 193. なお、この「クーデタ」によってTUCから排除されたスコットランドの労働組合協議会は、1897年にスコットランドTUCを創設した。

51) Roberts, *op. cit.*, p. 155.

主義のブームは終わってしまった」⁵³⁾ようにみえた。それにもかかわらず、つぎの3年間に組合運動内に独立労働代表運動が高まり、1900年に労働代表委員会が結成されるにいたったのはなぜか。つぎにこの転換の主要因について述べることにしよう。

2 資本家側の反攻

すでに述べたように、90年代後半にTUCを労働者政党結成にふみきらせる1つの要因をなしたのは、資本家側の反攻強化と裁判所の反組合的判決などによる労働組合運動の危機の高まりを組合指導者たちが自覚したことであった。

新組合運動の高揚に対抗して1890年以降資本家側の反撃が強化されてきた。90年代の反撃の最大の特徴は経営者諸団体の結成にみられる⁵⁴⁾。

最初の反攻は新組合運動のチャンピオンである港湾労働者に向けられた。1890年に港湾労働者の雇用主と船主たちが共同して結成した「船主経営者連盟」は、まずはじめに会社組合の組織化を試みたが、それが失敗した後、組合側の要求するクロズド・ショップ制に抵抗して、非組合員の船員や港湾労働者の供給によって組合を破壊しようとした。主としてクロズド・ショップ制の問題をめぐる90年から93年にかけてほとんどすべての主要な港でストライキが生じ、すべて組合側の敗北に終わった。最後の最大のストライキは93年にハルで生じたが、その敗北の翌日(5月20日)『タイムズ』紙はその社説で、「他の地域と同様にハルでも新組合運動は敗北した。だがその敗北がこれほど決定的で降伏がこれほどみじめであったところはほかにない」と書いた⁵⁵⁾。

船主経営者連盟の組合攻撃が成果をあげたので、93年には同連盟の支援のもとで「自由労働者全国組合」が設立された。それは「社会主義的な労働組合指導者の暴政と支配から労働者一般」を保護することを目的とすると称していたが⁵⁶⁾、その実際の機能は「自由労働者」(ス

ト破り労働者)の供給であった。

資本家側の反撃は、新組合だけではなく、綿業、石炭産業、機械産業などの旧組合にたいしても向けられた。産業資本主義の「黄金時代」の花形産業であったこれらの産業では、世界市場での競争力低下の結果、経営者は、賃金面では賃下げを要求し、管理面では、新しい機械と技術の効率的な導入のために労働組合の制限的慣行の打破をめざしていた。

93年には綿業と石炭産業において賃下げ問題をめぐって大規模なロックアウトがなされた。91年に結成された「綿紡績経営者連盟」は、92年11月から93年3月までロックアウトを続け、賃下げに成功し、さらに全国的な団体交渉手続きを定めたブルックランズ協定を締結した。石炭産業のロックアウトについては後述するが、主要産業の紛争中最大規模のものは、97年7月から98年1月まで続いた機械産業でのロックアウトであった。

ここでは、最強の経営者連盟と最強の労働組合とが対決した。機械工合同組合は、新組合運動の影響を受けて、92年に規約を改正し組合員資格の枠を広げ、さらに96年には独立労働党員のG. パーンズを書記に選出し、戦闘的になっていた。同じ96年、この組合に対抗するために「機械産業経営者連盟」が設立された。翌97年ロンドンで機械工合同組合が8時間労働日獲得闘争を組織したとき経営者連盟が干渉を開始した。連盟は総力をあけて組合と対抗し、全国的ロックアウトを始めた。争点も8時間問題から管理権問題へと拡大した。この時期においては技術変化にともなう管理権問題がすべての大争議の基本的争点であった。「総労働と総資本という産業の両サイドが、彼らの利害全体のために闘う両主役をみつめていた」⁵⁷⁾。しかし、イギリス労働運動史上はじめてのこの全国的規模の大争議は組合側の敗北に終わった。その結果、組合側は、8時間労働日要求を取り下げただけではなく、徒弟規制、残業規制、職域規制などのいわゆる「クラフト・コントロール」をも奪われることになった。

組合が敗北した98年、機械産業経営者たちのイニシアティブのもとで、ほとんどの主要産業の経営者たちが参加した「経営者議会対策協議会」Employers' Parliamentary Council が結成された。「自由契約と自由労働」を目的とするこの経営者側のPCは、TUCのPCに対抗するために設立され、TUCのPCと同じやり方で経営者のために活動した。

52) Adelman, *op. cit.*, p. 24.

53) Pelling, *op. cit.*, p. 179.

54) 91年に設置された王立労働問題調査委員会は、94年に発表した報告書でつぎのように述べている。「雇用主たちの公式の組織は通常、労働者組織よりおそく出現し、個々の雇用主だけでは労働組合の増大する勢力に対抗しかねるときに、共同の抵抗を目的として現われる」(Royal Commission on Labour, *Fifth and Final Report*, 1894, p. 31)。

55) 93年結成の「自由労働者全国組合」の書記W. コリスンは、ストライキの結果ハルは「自由労働の砦」になった、と書いている(Adelman, *op. cit.*, p. 15)。

56) *ibid.*, pp. 25-26.

57) *ibid.*, p. 26.

労働組合は労使紛争において敗北を重ねただけではなく、90年代後半には裁判所の反組合的判決によってその法的地位もしだいに低下していった。

いくつかの反組合的判決のなかでも TUC の PC がとりわけ重要視したのは、「ライオンズ・ウィルキンズ事件」の判決であった。96年、ライオンズという皮革品製造業者がストライキ中のピケの除去を裁判所に申請したさい、それが平和的なピケであったにもかかわらず除去命令が出された。組合側の控訴にたいして控訴院もその強制命令を確認した。この訴訟は97-98年にもくりかえされたが、いずれも組合側の敗訴に終わった。1875年法によって合法とされていた平和的なピケティングの権利がいまや再度危機にさらされるようになった。それにもかかわらず、TUC の PC はこの事件を上院へ上訴して争うための資金にも事欠いていた⁵⁸⁾。多くの組合指導者は、TUC 創設の前年(1867年)と同様に、組合運動の基盤そのものの危機を自覚するにいたったのである。

労使紛争での敗北と法的地位の低下に加えて、労使紛争への政府の直接介入の開始もまた組合指導者たちに政治行動の重要性を自覚させる一要因となった。

労使紛争への政府の直接介入は、93年の炭鉱労働者30万人のロックアウトのときに始まった。25%の賃下げ問題をめぐってロックアウトが4ヵ月続いた段階でグラッドストーン首相は政労使三者の合同会議を開いた。紛争は賃下げなしで終結した。この会議を契機として賃金問題を扱う調停委員会が当初1年間のちにさらに3年間の権限をもって、設置されることになった。

新組合運動高揚期の争議問題を主として調査するために91年に設置された王立労働問題調査委員会は、94年に報告書を発表した。その勧告にしたがって、96年に調停法が成立した。この法律により、商務省の労働局は、争議のさい、労使の要請により、調停者・仲裁者を任命する権限を与えられることになった。この立法措置は、争議にたいする国家の介入への傾向を示すものであった。

国家介入の必要性を生み出したのは、80年代末から90年代にかけての新しい労使関係の発展であった。労使双方において、組織が全国化し、団体交渉が全国化し、労働問題が地域レベルからナショナルなレベルへと拡大するにつれて、国家がそれに対応せざるをえなくなってきたのである。

すでに述べたように、この時期の技術進歩の結果、経

営者側は全国的規模の産業別連盟を結成することによって、地域レベルにおける労働条件の組合による規制(クラフト・コントロール)に対抗して経営者側の管理権の確立にのりだした。これにつれて組合側も地域レベルの対応では不十分になり、ナショナルなレベルで対応するようになった。この時期の組合側の組織面の発展の特徴としては、①フルタイムの組合役員の急増、②従来は組合本部のある地域の組合員から選出されていた執行委員が、全国的全組合員から選出されるようになったこと、③特定産業における組合連合の結成があげられる⁵⁹⁾。

労使双方における組織の全国化は団体交渉の全国化を伴うものであった。この時期に全国的な産業別の団交手続き協定がつくりあげられていった。その主内容は、地域レベルで解決されえない紛争はスト権行使前に当該産業の中央交渉にかけられるべきだ、とするものであった。この種の全国協定は、綿織物ではすでに1881年に成立していたが、多くは90年代に成立した(綿紡績では前述の93年のブルックランズ協定、製靴産業では95年、機械産業では98年)。

交渉の全国化は紛争の全国化を意味した。労働問題が地域レベルからナショナルなレベルへと拡大するにつれて、それにたいする国家の対応の必要性が生じてきたのである⁶⁰⁾。

1897年イギリス経済は長期の「大不況」をやっとのりきり好況期をむかえていたが、この「大不況」期のあいだに国家の側では政策基調が、国家介入を可能なかぎり避けるレッセ・フェール政策から国家援助 assistance of the State の必要性の認識へと変化しつつあったといえよう⁶¹⁾。

このようにして世紀末には、労使間交渉が全国的規模に拡大しただけでなく、さらに労使関係に国家が介入するかたちで、いわば政労使三者のナショナルなスケールでの関連が問題とされる基盤が徐々に形成されてきたの

59) Martin, *op. cit.*, pp. 66-67.

60) 90年代には TUC と政府との関係もより直接的なものになっていった。91年にはソールズベリが保守党政府の首相としてはじめて TUC 代表団と会見した。90年代にはその他の多くの首相、大臣との会談がなされた。保守党政府も自由党政府も TUC の指導者たちを王立調査委員会をはじめ多くの臨時の諮問機関の委員に任命した。93年からは商務省が毎年 TUC 大会にオブザーバーを派遣した(*ibid.*, p. 93).

61) 社会主義者だけではなく、「公正貿易」(保護貿易)を求める資本家たちもまた国家援助を求めていた。とりわけ1881年に「公正貿易全国同盟」が結成されて以来、この傾向は強まっていった。

58) Brown, H., *The Rise of British Trade Unions, 1825-1914*, London: Longman, 1979, p. 83.

である。

上述のような時代背景のもとで、90年代後半には従来の労働組合運動のあり方にたいする危機感が組合指導者のあいだに高まってきた。この危機感にたいする組合側の対応は2重であった。第1は組合間の相互支援の強化であり、これは99年の「労働組合総連盟」の設立に結実した。第2は、独立労働者政治の有効性の論議の高まりであり、これは1900年の「労働代表委員会」の設立に結実した。

TUCのPCの基本的機能は長いあいだ議会对策に限定されてきた。すでに70年代からPCが労使紛争や組合間紛争にも従事するように働きかけがなされてきたが、いずれも成功しなかった。すなわち、74年TUC大会の決議にもとづきPCは組合連合体結成案を作成したが、その案は75年大会で否決された。また、77年大会は、PCが組合間紛争の調停をする可能性について検討することをPCに指令したが、翌78年大会でPCはその可能性を否定する報告をした。79年大会では、TUCを組合連合体に改組して、組合運動全体のための政策を実行する権限をPCに与えるという決議案が、2票差で可決されたが、その後の組合の反応があまり芳しくなかった。結局PCはその案を棚上げにしてしまった。

だが、新組合運動の高揚とともに90年代にはTUC改組構想が再生した。1890年にPCは組合連合案を作ったが、これはペーパー・プランに終わった。93年大会は再度この問題を取りあげた。翌年新プラン作成のための委員会が設置されたが、この委員会の作成したプランは95年大会で否決された。

この種のプランを現実化させる契機となったのは、97-98年の大争議における機械工合同組合の敗北であった。97年TUC大会で、「紛争、ストライキ、ロックアウトのさいに相互支援をなしうるために」組合連合体を結成することが望ましいとされ、計画作成委員会の設置が決議された。この委員会の報告は翌98年大会に提出され、計画を具体化するための組合代表会議をPCが招集することが決議された。99年1月に開かれたこの会議で労働組合総連盟が結成されることになった⁶²⁾。PCはこの新組織の臨時執行委員会の役を引き受けたが、この新組織に責任を負わないほうがTUCの組織的發展に有効だと判断して、7月に、総連盟参加組合の代議員会を開き、新執行部を選出させ、総連盟を独立機関とした。

62) 組合間紛争の調停については、1894年にPCがはじめてこれに着手し、世紀転換点からはPCの恒常的機能となった。

総連盟の運営はその創設時から困難をきわめた。TUC参加組合員の約4分の1にあたる34万名を組合員とする44組合が参加したにすぎず、しかもその多くは財政力の弱い小組合であった。大組合は自己の権限が制限されることを恐れて参加しなかった。そのうえ総連盟の組織形態は、独立の諸組合のゆるやかな結合にすぎず、中央機関には運動に必要な十分な権限は与えられなかった。そのため総連盟は、その設立目的にふさわしい戦闘的な組織にはついにならなかった。

だが総連盟への諸組合の結集は、政治行動の結集のための重要な先例となったのである。

3 自由党からの分離傾向

19世紀末にTUCを労働者政党結成にふみきらせた遠因が、労働組合運動の危機の高まりであったとすれば、その近因は、既存政党に依存する政治ではこの危機を克服しえないとする認識の広がりであった。

90年代の労働者政治の一大特徴は自由=労働主義の弱化にみられる。95年6月の総選挙での保守党の大勝利は長期保守党政権のはじまりとなったが、その勝利の重要な一要因は、前自由党政府の労働政策の不手際から自由党が十分な労働者票を獲得できなかったところにあった。

92-95年の自由党政府は、労働者側が要求する社会改良をほとんど行なわなかった。さらに自由党は、90年代には、労働者候補を公認して自由党にとりこむという政策にたいしても積極的態度を示さなくなっていた。自由党の地域組織のなかで支配的地位を占める企業経営者たちは、露骨に反組合的態度を示していた。自由党の地域組織にたいする組合指導者たちの不信は、多くの地域組織が労働者候補の公認を拒否するにおよんでますます大きくなっていった。

1886年に結成された前述の労働者選挙協会の会員数は、91年に頂点に達し、その年の協会の大会代議員は75万人を代表していた。だが、自由党はこの大組織を活用しようとはしなかった。協会の綱領の第1は議員歳費制要求であったが、自由党政府はこの要求を取りあげなかった。自由党は92年の総選挙でも95年の総選挙でも協会の諸要求を無視した。

94年には労働者選挙協会の書記のスレルフォールまでもが、一般の自由党地域組織は「中産階級の機関」であり「階級的偏見をもっている」として自由党を非難するにいたった⁶³⁾。また、独立労働党のR. マクドナルド

63) *Nineteenth Century*, Feb. 1894, cited in Pe-

も 95 年にこう書いた。「われわれが自由党から去ったのではない。彼らがわれわれを追い出し、われわれの面前でドアを閉めたのだ」⁶⁴⁾。

自由党の協力を得られなくなった労働者選挙協会は急速に衰退し、95-96 年には崩壊してしまった。労働者選挙協会の衰退につれて、独立労働党が労働者代表運動の主導権を握っていった。

95 年選挙で惨敗した自由党は弱体化し、その自由主義的帝国主義的政策も労働者階級をひきつけなかった。多くの旧型の組合指導者たちにとっても自由党にたいする期待はいまや大きなものではなくなった。

他方、保守党政府に多くを期待することもできなかった。95 年選挙で大勝利を得た保守党政府の地位は強固であり、その基本的政策は労働者階級のためのものではなかった。保守党は労働者階級にたいする態度で分裂していた。一方には産業資本家層がおり、組合運動にたいする全面的攻撃をめざしていた。他方には社会改良をめざすチェンバレンと急進派ユニオニストがいた。チェンバレンはビスマルクの社会改良を高く評価し、この路線で若干の小さな社会改良を行なったが、基本面での進展はみられなかった。チェンバレンの改良への熱意はやがて帝国への熱意の前に色あせていった。保守党政府は、社会問題よりは外交問題、植民地問題、そしてボーア戦争に主要な関心をむけていったのである。

他方、90 年代には地方自治体における労働者政治の発展がみられ、その経験の蓄積がナショナルなレベルでの独立の労働者政治の成功の可能性を示唆するにいった。95 年には全国の地方自治体議会 borough council に 600 名の労働者議員が選出されており、彼らの多くは社会主義者であった。98 年にはウェスト・ハムで労働者議員がはじめて多数派となった⁶⁵⁾。

また、95 年 TUC 大会の議事運営規則の改正にもかかわらず、社会主義者は個々の組合において勢力を拡大していき、それを通じて TUC 自体にも影響力を強めていった。ベリングによれば、各主要組合が政治活動を支持するようになっていった経緯はつぎのようである⁶⁶⁾。機械、造船、鉄鋼などの重工業の組合の場合は、国際競争力の弱化、新機械の導入、企業の結合化などが世紀末の労使関係に不安定な状況を生み出していたが、とりわ

け不況の影響が若い労働者層に社会主義者を増加させていった。製靴産業や印刷業の場合は、とりわけ機械化の進展による労使関係の不安定が社会主義者を増加させた。鉄道従業員合同組合の場合は、企業の組合承認を得られなかったので、労働条件が相対的に悪かった。この組合は 98 年に独立労働議員候補者への資金援助を決定した。また同じ 98 年以来、独立労働党の G. J. ウォードルが組合機関誌 *Railway Review* を編集することになった。「新組合」の場合は、ガス労働者、ロンドン港湾労働者、リバプール港湾労働者の組合の書記が社会主義者であった。また、98 年にトム・マンが機械産業の半熟練労働者を結集して設立した「ワーカーズ・ユニオン」も、独立労働議員選出運動を強く支持した。

このような状況下で、90 年代後半には、「労働組合員は自らの票を 2 大政党から独立して活用すべきだ」とする議論が組合指導者のあいだで多くなされるようになった。また、旧来の伝統的組合主義者も独立労働議員選出論に強く反論できなくなっていったのである。

4 労働代表委員会の結成

組合指導者たちのあいだに政治的意識が高まっていくにつれて、社会主義者と労働組合員との連合を基盤にして全国的規模の労働者政党を結成しようとする独立労働党の政策も、より具体化していった。すでに 96 年にハーディは、社会主義諸団体、労働組合、協同組合の統合化の問題についてつぎのような構想を明らかにしていた。

「3 年前ブラッドフォードで独立労働党の第 1 回大会が開かれた日の夕方、私はこの問題についてジョージ・バーナード・ショーと話し合ったことをおぼえている。そのとき私はつぎのような意見を述べた。定期的に、たとえば 1 年に 1 回、社会主義者の大会を開催し、すべての社会主義団体、すべての労働組合と協同組合に代議員の参加を要請する。私は TUC をモデルに考えていた。TUC は、熟練労働者の組合も不熟練労働者の組合も含んだすべての種類の労働組合の代議員によって構成されている。TUC は毎年労働組合界の意見を明らかにする。しかし TUC の決議は各構成組合の独自行動を拘束するものではない。私の考えでは、独立労働党、社会民主連盟、フェビアン協会、その他の諸団体が独自活動をしながらも、この委員会は、イギリスにおける社会主義運動の公認の頭部となろう。労働組合の活動家たちにたいする影響は巨大なものとなろう」⁶⁷⁾。

96 年のうちにこの構想を採択した独立労働党の執行

ling, *op. cit.*, pp. 222-223.

64) 1895 年 8 月 16 日付, H. サミュエルあて手紙 (Pelling, *op. cit.*, p. 224).

65) Adelman, p. 28.

66) Pelling, *op. cit.*, pp. 197-199.

67) *Labour Leader*, 22, Feb. 1896, cited in Pelling, *op. cit.*, p. 202.

部は、TUC 大会でこの問題を検討するように TUC の PC に要請した。しかし PC は、労働組合総連盟の結成問題で手いっぱいでもあったので、この案をとりあげなかった。

98 年 8 月末から 9 月初めにかけて開かれた TUC 大会の代議員は、ハーディの計算によれば、その過半が社会主義者であり、しかもそのうちの 60% が独立労働党員であった⁶⁸⁾。これは過大評価であったかもしれないが、いずれにせよ、この TUC 大会で、「労働者階級の社会主義諸政党」を支持するように労働組合員にすすめるという決議が採択された。PC の構成も、自由=労働派の要素は弱まり、13 人中 4 人が社会主義者だとみなされた⁶⁹⁾。

ハーディは、独立労働党代表選出運動にたいする TUC の支持を求める好機が到来した、と考えた。98 年 TUC 大会の 1 ヶ月後、10 月 1 日に、独立労働党の執行部は、「共同政治行動の組織を目的として」、TUC とスコットランド TUC の両 PC に働きかけることを決定した。同日ハーディは、独立労働党の機関誌 *Labour Leader* のなかで、彼の計画についてつぎのように述べている。

「われわれの目的とすべきは、地方自治体の諸目的のためにすでにグラスゴーにおいてみられるのと同種類の労働者の共同を全国レベルで実現することである。すなわち、労働組合員、社会主義者、協同組合員が、まず最初に共同綱領をつくり、各組織が自らの候補者を選出し、そして運動費用もまた共同負担とすることである」。

この提案にたいするスコットランド TUC の反応ははやかった。スコットランド TUC の PC メンバーの多数は独立労働党員であった。翌 99 年 4 月に開かれたスコットランド TUC 大会は、「つぎの総選挙での労働者階級の統一行動を決定するために」PC が特別会議を招集すべしとする決議を採択した。この特別会議は翌 1900 年 1 月 6 日にエジンバラで開かれ、スコットランド TUC、独立労働党、社会民主連盟の代表が独立労働者議員選出の必要性を決議し、そのための執行機関としてスコットランド労働者議員選出委員会を設置した。

前述の独立労働党の提案に反対する強力なグループがまだ存在していた TUC においては、議論が紛糾した。だが、1899 年 9 月の TUC 大会が開かれる 2 ヶ月前に行なわれた下院補欠選挙が自由=労働派の政治の矛盾を

示すこととなった。すなわち、TUC の PC メンバーである J. モーズリィが保守党候補として立候補したが、その彼が主として自由=労働派の干渉によって落選したのである。それは多くの組合指導者たちの従来の政治方針を再検討する契機となった。

99 年の TUC 大会では鉄道従業員合同組合の代議員である J. ホームズがつぎの決議案を提出した。「本大会は従来の諸決議に鑑み、かつ下院において労働者の利益をよりよく代表する者を確保する目的をもって、相互に賛同しうる共通路線のもとで共同行動をするためにすべての協同組合、社会主義団体、労働組合、その他の労働者諸団体の協力を求めることを議会委員会に要請し、そのために、次期の議会に労働者議員の増加を確保する方法と手段を講ずるという主旨に賛同する上記の諸団体の代表者による特別会議を召集することを議会委員会に指令する」。

この決議案の狙いの 1 つは、特別会議召集後の労働者政党結成計画の作成を PC の手から奪うことにあった、といわれている⁷⁰⁾。

リバプールの港湾労働者組合 (National Union of Dock Labourers) の書記であり独立労働党員でもある J. セクストンは、労働者が自由党と保守党とに分裂して争った最近の選挙の混乱を指摘し、この決議案をセコンドした。3 時間にわたる激論ののち、決議案は 546,000 票対 434,000 票で採択された。TUC 総票数の 6 分の 1 は棄権であった。主として社会主義者の影響下にあった 7 つの主要組合 (Boot and Shoe Operatives; Carpenters; Railway Servants; National Union of Dock Labourers; Dock, Wharf, Riverside, and General Labourers' Union; Gasworkers; National Amalgamated Union of Labourers) が決議案を支持した。その総票数は 229,597 であった。これにたいして、主として「非現実的だ」という理由でこの決議案に反対した綿業と炭鉱の諸組合の総票数は 351,140 であった。それゆえ、ほとんどの中小組合は賛成票を投じたと思われる⁷¹⁾。

この決定は「政治行動にたいする労働組合の態度の真の変化を示すもの」⁷²⁾となった。

大会終了後、関係諸団体に連絡がとられ、大会決定を具体化するための特別委員会が設置された。そのメンバーは、独立労働党、社会民主連盟、フェビアン協会から各 2 名、およびロンドン在住の PC メンバー 4 名の計

68) Moore, G., *The Emergence of the Labour Party, 1880-1924*, Kent: Hodder and Stoughton, 1978, p. 74.

69) Pelling, *op. cit.*, p. 203.

70) *ibid.*, p. 205.

71) *ibid.*, p. 206.

72) *ibid.*, p. 206.

10名で、社会主義者が多数を占めた(PCメンバー中、W.C.ステッドマンはフェビアン協会に、W.ソーンは社会民主連盟に属しており、ともに新党結成支持者であった)。委員会は数回会合を重ね、新党結成大会のための決議案と規則案を作成した。

1900年2月にロンドンで開かれた「労働代表会議」に参加したのは、独立労働党、社会民主連盟、フェビアン協会、および67の労働組合の、総計57万人を代表する129名の代議員であった。PCメンバーのステッドマンを議長とするこの新党結成大会は、「自己の院内幹事をもち、政策で一致する議会内の明白な労働議員団を結成する。そしてそれは、労働者の利益に役立つ立法の促進に当面従事しているどのような政党とも協力する用意をもち、また反対の傾向をもつ措置に反対するどのような政党とも連携する用意をもつものでなければならない」という決議を採択した。大会はまた、7人の労働組合代表と5人の社会主義団体代表(独立労働党代表2人、社会民主連盟代表2人、フェビアン協会代表1人)の計12名から成る執行委員会を設置し、新組織の書記として独立労働党のR.マクドナルドを選出した。執行委員会の

主要任務は、議員候補者リストの作成、基金の管理、年次大会の召集、加盟団体との連絡であった。

この「労働代表委員会」の結成は、世間の注目をほとんどひかなかった。人々の関心はもっぱらボーア戦争に集中していた。労働代表委員会を結成した人々でさえ新組織の未来に確信をもてなかった。フェビアン協会のメンバーたちは、新組織はやがて失敗するだろうと考えていた。社会民主連盟は、連盟の主張する社会主義的見解が受け入れられないので、翌1901年に新組織から脱退した。独立労働党員のR.ブラッチフォードが編集する『クラリオン』紙ですら、新組織誕生を歓迎する言葉は、つぎのように慎重なものであった。「ついに統一労働党 United Labour Party が誕生した。むしろこう述べたほうがより確かかもしれない——統一労働党に成長するかもしれない小さな雲が、人の手ほどの小さな雲が生まれた、と」⁷³⁾。

富 沢 賢 治

(一橋大学経済研究所)

73) *Clarion*, 10 March 1900, cited in Moore, *op. cit.*, pp. 77-78.